



「努力できることが才能である」～プロセスを讃えよう～

プロ野球の巨人から、大リーグのニューヨーク・ヤンキースに移籍し、ワールドシリーズで大活躍してMVP（最優秀選手賞）を獲得した松井秀喜さんをご存知でしょうか。

平成25年5月5日に長嶋茂雄さんと一緒に国民栄誉賞を受賞しました。一昨年の東京オリンピックのときには、王貞治さんと3人で聖火ランナーとなって入場しました。

さて、「努力できることが才能である」というのは、小学校3年生のときに秀喜さんの父親・昌雄さんが色紙に書いた言葉です。秀喜さんは、この色紙を部屋に飾って、それを見ながら、ひたすら素振りの練習を繰り返したそうです。

私たちは、とかく結果にとらわれがちです。一人一人の子どもへの頑張りそのものや、頑張ったプロセスにもっと目を向け、承認し、称賛したいものです。

ぼくのまほうのことば

小学校2年男子

ぼくにとってまほうのことばは、お母さんがいってくれる、「〇〇ちゃんは、いつもがんばっているね」のひとことだ。

お父さんや先生からはよく、「がんばれよ」といわれる。

ともだちには、「がんばって」といわれる。

同じ「がんばって」なんだけど、ぼくにとってお母さんの「がんばっているね」はちがうんだ。

子どもの感受性は鋭いですね。同じような言葉の中に違いを感じ取っています。お父さんや先生、友達の「がんばれ」は、ちょっと角度を変えれば「今のままではいけない。もっと努力しなさい。」というふうにも受け止められます。それに対して、お母さんは「あなたが頑張っていることを私はちゃんと見ていますよ。そんなあなたはとっても素晴らしい。今のあなたでいい。」と今、頑張っていることを認め、称賛しているように受け止められます。

目標を何とかクリアしようと、その子なりに努力すること（したこと）を大いに称賛しましょう。たとえ失敗しても、うまくいかなかったとしても努力したことが尊いのです。

努力できる（している）ことが才能であると認め、讃えて、継続する意欲につなげて、自己肯定感を高めましょう。達成感や充足感のある経験をいくつも積み重ねていくことで、「自信」を持つことにつながります。

子どもの将来を広げるためにも、努力できることはとても大切です。



自己肯定感を高める + 努力したこと・達成感のある経験を積み重ねる → 自信をつける

今年4月1日から全利用者を対象に自転車のヘルメット着用が努力義務となります。

右の表は令和4年4月から1月までの、巡回した補導実績の集計です。ご覧のように、特に自転車のヘルメット未着用に対して声かけをした数がダントツです。

道路交通法が改正され、令和5年4月1日から全利用者を対象に、自転車のヘルメット着用が努力義務となります。かけがえのない命を守るために、ヘルメットの着用をお願いします。

帰宅指導	24
自転車の二人乗り	8
自転車のヘルメット未着用	64
自転車の並進、無灯火等	27
広がり歩行、斜め横断等	10
危険な遊び等	4
その他	9

次の文章は、南日本新聞に掲載されたものです。

父の言葉

中学校2年女子

小学校から剣道が続けている。部活動や少年団の夜練、休みなしの日々に追われ、これまでに「辞めたいな」と思うこともあった。

そんなとき、父がふと言った言葉が強く印象に残っている。それは「誰にでもできることを 誰にでもできないくらい続ける」で、私の行動を考え直させてくれた。

剣道を辞めたいという思いから、日々の自主練さえおろそかにしていた。誰にでもできることすら続けることができなかつた自分がとても小さく見え、悲しくなつた。

それから私は日々の稽古に対する考えを変え、単身赴任中の父とオンラインでも稽古もするようになった。

私は剣道部員だが、レギュラーになって絶対に試合に出たい。これからくじけそうになったら、「誰にでもできることを 誰にでもできないくらい続ける」という父の言葉を思い出そう。これまで以上に練習を頑張っていきたい。